

アメリカの 教育の場における ジェロントロジーの動向

特・別・寄・稿

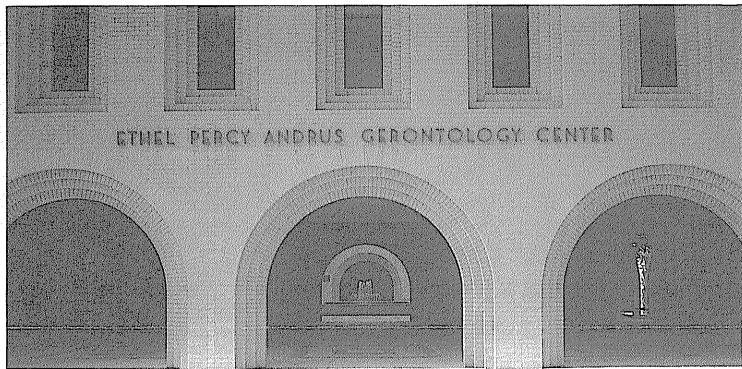
南カリフォルニア大学
ジェロントロジー博士課程



うえだ ひろし
上田 博司氏

日本で老年学、老人学として一般に理解されているジェロントロジーは、アメリカでは科学(サイエンス)の分野、特に生物学の分野において、老化の現象やその過程を対象とした研究として一〇〇年以上前から関心をもたれていました。当初の研究は植物や動物を対象としたものが多く、いわゆる「人」を対象としたジェロントロジーの研究はすぐには起こりませんでした。その理由としては、生物学的研究の多くが実験を基本としたものであった事以外に、多くの研究者が十分な設備を持った専門施設を使えなかった事、また医学の分野では必要性にあまり強く迫られていなかった事、高齢者人口が低かったことなどが挙げられます。しかしながら、一九二〇～四〇年にかけて「人」を対象としたジェロントロジーに対する関心は様々な分野で高まり、生物学のみならず、心理学、医学、社会学の分野でも行われるようになりました。さらに、一九四〇年代に入ると、多くの大学で、ジェロントロジーに関する研究機関を持つようになり、また各施設で長期追跡的研究が始まりました。

アメリカの大学教育に於けるジェロントロジーは、他の学問に比べると必ずしも古いとはいえません。しかし最近急速に増えつつあり、一九六〇年代はじめには六十近くの大学でしか行われていなかったジェロントロジーに関するクラスは単位認定が九〇年代初めには一六〇〇以上に増加し、



学科数も七〇〇近くになりました。現在、南カリフォルニア大学(USC)が全米で唯一、四年制から大学院博士課程までを学部として持っている。その博士課程は一九八九年から始まりましたが、アメリカでは最も古いものです。このほかマサチューセッツ大学と南フロリダ大学が博士課程を置いています。現在アメリカでは七名の学生がジェロントロジーの博士課程を修了しており、またこれらの課

程にはアジアを中心に、ヨーロッパ、中南米、中近東の国々からも学生が集まって来ています。

高齢者、または老化に関する研究は医学、社会学、心理学、経済学、政治学、社会学、または教育学等の様々な分野の枠組みの中で各々の関心を基に行われ、派生・発展して行きました。これら様々の研究成果を新しい学問として一つの枠組みの中で体系化しよう

としていたものが、ジェロントロジーの学問であると思えます。しかし現段階ではジェロントロジーは殆どの大学で独立した学部として存在しておらず、ある既存の分野(社会学、心理学、社会学、経済学、政治学等)の中で重きを置くというかたちを取っています。

授業の内容も大学毎に様々で、卒業に必要な取得単位数も違います。このため、必ずしもジェロントロジーの学部には籍していないくても何らかのかたちでジェロントロジーを学んでいる学生がアメリカには多くいるわけですが、ジェロントロジーを学ぼうとする学生は、こういったことを念頭に、自分の学びたい科目がその大学で講義されているのかどうかなど前もって調べる必要があるでしょう。

こういった多種多様にわたるジェロントロジーの学問に一定の標準を設けるために、アメリカではジェロントロジー教育協会(AGHE)がカリキュラムに関するガイドラインを設定しています。しかしながら、講義内容については標準が設けられていないので、昨年11月のアメリカ老年学会(GSA)では講義内容に関する情報を多くの関係者が

交換できるように、インターネットの使用を試みてはどうかというような意見も出されました。更にジェロントロジーを学ぶ学生の為に資格制度を設けるべきではないか、という将来の課題に関するシンポジウムもありました。

現在いくつかの大学では、社会のニーズに応じてジェロントロジーに関するクラスを一般教養の中に取り入れようとする動きがあります。またジェロントロジーの学科を置いている大学では、一定の期間を定めて学生に研修を行わせているところもあります。ジェロントロジーを修めた学生は、病院、クリニック、リハビリテーションセンター、老人ホーム、在宅サービス、社会福祉施設、シニア・センター、コンサルティング会社、大学研究機関、政府機関、そして自治体等で幅広く活躍していますが、就職の際には研修による実践経験は大いに役立つようです。

このように学問の内容が充実していく反面、三年前にはいくつかの大学において州による教育予算削減のため、ジェロントロジーのクラスが閉講されたりプログラムがカットされることになりました。ジェロントロジーはまだ他の学科と比べて人気が高いとはいえません。またジェロントロジーという言葉そのものについて、その分野に携わっている人々を除いてみ

ると、アメリカ社会でもまだその知名度は低いようです。よくジェロントロジーをジェリアトリックス(老年医学)と錯誤する人がいますが、それはこの現われです。

学問としてのジェロントロジーは今後更に体系づけられ、その段階で内容は大きく変わっていくと思われます。老化によって起こる個人の問題はその個人の過去の経験によって様々なカタチで生じてくるものであり、こういったものを一つの枠組みの中だけで解釈



するのは非常に難しいことです。高齢者人口が増えていくにつれ、個人の生物学的・生理学的なミクロの問題のみならず、健康、年金、住宅、保険問題等、様々な社会問題がマクロのレベルで生じてきます。また医学の発展、医療技術の進歩による平均寿命の増加は更に新しい問題を生みだしています。このように将来考えられる社会の動きがジェロントロジーの携わる人を必要とするため、今後のジェロントロジーを学ぶ学生は増え続けていくことでしょう。